Volume 106（2016 年 4 月）

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/ https://www.facebook.com/JapanRRN

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ…… 1
- 会員寄稿記事…… 2
- 研究・事例紹介……5
- JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ、書籍等の紹介……9

JRRN 事務局からのお知らせ（1） *JRRN Activity Report*

「桜のある水辺風景 2016」 写真とメッセージを募集しています！

皆様が 2016 年に撮影された「桜のある水辺風景」の写真とメッセージを今年も募集中です。

本企画も７年目を迎え、今年からは **Facebook でのご応募も可能**となりました。

沖縄から北海道まで、日本の魅力を再発見できるような素敵な桜のある水辺写真をお待ちしております。

【応募〆切：5 月 18 日（水）】

※募集案内ページはこちらから：
http://jp.a-rr.net/jp/news/info/678.html

※Facebook での応募方法はこちらから：
http://jp.a-rr.net/jp/news/info/684.html

桜のある水辺風景 2016 応募要項 （E メール応募方法）

○**応募資格**：どなたでもご応募いただけます。

○**作品規定**：ご本人が 2016 年に撮影したデジタル写真（3MB 以内／枚）のみの投稿とさせて頂き、応募はお一人 5 点まで可能です。なお、個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

○**応募方法**：「応募シート」に、題名、撮影場所、撮影年月、メッセージ、氏名、E メールアドレスをご記入の上、写真と共に以下応募先へ E メールで送付下さい。

●応募シート：http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Photo2016form.doc

○**応募期間**： 2016 年 3 月 23 日（水） ～5 月 18 日（水）

○**応募作品の取扱い**：

- Facebook ページ及び「桜のある水辺風景 2016 応募写真集」の中でご紹介させて頂きます。
- 応募作品を紹介する際には氏名も掲載させて頂きます。
- 同一地点での類似した風景等の作品は事務局により写真集掲載作品を選ばせて頂く場合があります。
- 応募内容が本企画趣旨に沿わないと判断した場合は紹介を控えさせて頂くことがあります。
- JRRN の刊行物やウェブサイト等で使用させて頂くことがあります。
- 応募作品は返却致しませんのでご了承ください。

（JRRN 事務局・和田彰）

釣りを楽しむ家族　千葉市 HP より

河口風景　千葉市資料データベースより

あの日のあの川 リレー日記　～第 15 話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです．リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます．

第 15 話主人公　工藤拓哉

（筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：千葉県花見川）

「あの時の川の名は？」

いつのこと？：　中学生時代

どこの川？：　花見川

ついに来てしまった．「あの日あの川」リレー日記はここまで多くの人がバトンを繋ぎ,川の思い出を語ってきた．いつかは順番が回ってくるだろうと,僕が今まで生きてきた中で,川にまつわる出来事を探していた．「川と人」ゼミに入ってからは多くの川と出会い，ここに書いても書ききれないほどの思い出がある．しかし,せっかくこういう場をいただけたからには，自分が生まれた場所の川について書きたい．その一心で子供時代の川の思い出をしぼりだそうとしたが，まったくと言っていいほど出てこない．なぜだろう，僕の記憶の中に川はいない．これまでに，地元の川を書いている人はたくさんいたのに，僕はなぜ出てこないのだろう？そう思っていると，ふとあることに気づいた．「あれっ…実家の近くに流れている川ってあったか？…」なぜ今まで気づかなかったのだろう,僕の住んでいる家のまわりに川は流れていなかった．思い出せないのは仕方がない，子供の頃，身近に遊ぶ川がなかったのだから．そこで，なぜ実家のまわりに川が流れていないのか，調べてみることにした．

僕が生まれ育った千葉市は，もともと川が少ないため，昔はあちこちにあった湧水や，用水路を利用して水を供給していたそうだ．しかし，身近にあった用水路や溜池などは，急速な市街地の発展と共に埋め立てられた．さらに建物や舗装路などで雨水が地下に染み込まないため湧水も涸れてしまい，身近に水と触れ合う場所がなくなってしまったそうだ．そんなこと初めて知った．川どころか触れ合う水場すらなかったのである．そんなことを知った矢先，本当に書く思い出なんてないじゃないか，なんてことを思っていると「花見川」とい

う川の名を目にした．名前は聞いたことあるな，と今度は花見川を調べて見ることにした．

最初に予測変換で出てきた単語は「釣り」であった．それと同時に中学校の時に釣りに熱中していたことを思い出した．その記憶のほとんどが海釣りだったが，その中で 1 回だけ川釣りをしたことがあった．その時は，実家から自転車で約 1 時間 30 分ほどかけて河口付近に行き，バス釣りをした．かかった時間を見ても相当の距離であることは分かるし，今となってはよく自転車で行ったなとすら思う．そんな道のりを友達と日が昇る前に出ていき，当時の身長ではとても大きい釣り道具を肩にかけ，さっそうと出かけたことをこの文章を書きながら思い出した．その友達は釣りのことは何でも知っている，言わば師匠のような人だった．師匠とは昔から仲が良く何をするにも一緒だったが，自転車でここまで遠出をするのはお互い初めてのことだった．内心心配ではあったが，出発してしまえばそんなもの吹っ飛んでいた．真っ暗な中，ひたすらに自転車をこぎ続けた．到着するまで会話はほとんどなかったが，お互い冒険しているかのようにわくわくしていることはわかった．そして，日の昇るころに目的地に到着した．正直，ここまで来るのに満足してしまい釣りなんてどうでもよくなっていた．当たり前だが，そんなことは師匠には言えず釣りを始めた．ターゲットはバス，種類は覚えていないがシーバスだったような，そして初めてのルアー釣りだった．しかし，初めて何時間経ってもまったく釣れる気配がなかった．師匠には，ルアーを生きているように動かせとアドバイスを受けるが，そんなこと言われても釣れないものは釣れなかった．その間に師匠は何匹か釣っていた．それを見て意地になり休むことなくルアーを動かし続けたが，糸が引くことはなかった．結果的に言えば，何も釣れないまま帰路に着いた．帰りは，行きのわくわく感とはまさに雲泥の差であり，体力のすべてを使ったが，不思議とまた行きたいという気持ちが込み上げていた．これでこの話は終わりである．

なぜこんなオチのない話をしたのかというと，もう分かっているとは思うが，釣りに行った川が花見川だったのだ．「あの日あの川」を書かなかったら決して知ることがなかっただろう．この花見川が，実家で一番身近にある川で，唯一覚えている思い出である．そう考えると，何気ない釣り話が，すごく輝いた思い出になった気がする．僕はこのような機会をいただき，地元の川の思い出として新たに心に残すことができて良かったと思う．と同時に，僕と同じように子供時代，身近に水と触れ合う環境がなく，思い出がない人をこれ以上増やさないように，水辺をどんどん増やせるような活動を行っていってほしい．また，僕もゼミを通して少しでも力になれたらと思っている．

（次は渡邉麻里乃さんにバトンを託します）

花見川サイクリングロード

（新検見川地域情報より）

JRRN 会員寄稿（2）　*JRRN Member Contribution*

水辺からのメッセージ *No.83*

岡村幸二（JRRN 会員）

水辺に春がきた：

水辺に静かな風が吹き、上野に春がやってきた

撮影：2016 年 3 月（東京都台東区・上野公園不忍池）

◆東京で最も低地にある不忍池

不忍池は大昔には古石神井川が武蔵野台地を割って海へ注いでいた開口部にありました。昭和 33 年以降は上野公園の一部となり、一面が蓮で覆われる蓮池(5.5ha)、ボートを漕げるボート池(3.0ha)、水上動物園内の鵜の池(2.5ha)の３つに分かれています。

◆琵琶湖の竹生島になぞらえて

水深 90ｃｍしかない不忍池の中央にある辨天堂は、天海大僧正が琵琶湖の竹生島になぞらえて、寛永年間に中之島を築かれたものです。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

研究・事例紹介（1）　*Research and Project Report*

遠賀堀川現地訪問（2016 年 2 月）の報告

筑波大学白川（直）研究室　遠賀堀川プロジェクトチーム

1．はじめに

2016 年 2 月 26 日から 27 日までの 2 日間、筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミの学生 2 名と、この春から新しくゼミに加入する新 3 年生 5 名の計 7 名で福岡県の遠賀堀川を訪れました。

今回の現地訪問は白川研究室の新 3 年生がプロジェクトに携わっていく上での新人現地研修として行いました（M2 と 3 年生の 2 名が引率しました）。

2．訪問日程

3 日間の日程は以下の通りです。

◆26 日　遠賀川水辺館・遠賀川河川事務所訪問
　　折尾駅前遠賀堀川

◆27 日　遠賀堀川沿いを踏査

3．遠賀堀川訪問

◆26 日

①遠賀川水辺館・遠賀川河川事務所

遠賀堀川に関連して、直方市にある遠賀川地域防災施設（遠賀川水辺館）にご挨拶に伺いました。この施設は遠賀川と彦山川という大きな川に挟まれているため（写真１）、年間を通してその豊かな自然を用いた体験学習が開催されているようです。頂いたパンフレットには水生生物調査やロープワーク・ワークショップなどといった水を大切にしながらも、それに限定することなく子どもの好奇心をくすぐる内容が報告されていました。

お話を伺った後は屋上に案内していただき、きれいに整備された 2 つの川が穏やかに流れているのを見ることができました。その傍らには散歩をしている人もいれば、自転車を悠々と漕いでいる人もいました。一目見ただけで、この川たちが地域の人に愛されているのがわかる景色でした。

②折尾駅前

夜に折尾駅に到着し、遠賀堀川沿いの飲み屋街を歩きました。（写真２）飲み屋街を抜けた先に高校があるということで、下校中の学生が多く歩いていました。

写真１　水辺館屋上からの遠賀川(左)と彦山川(右)

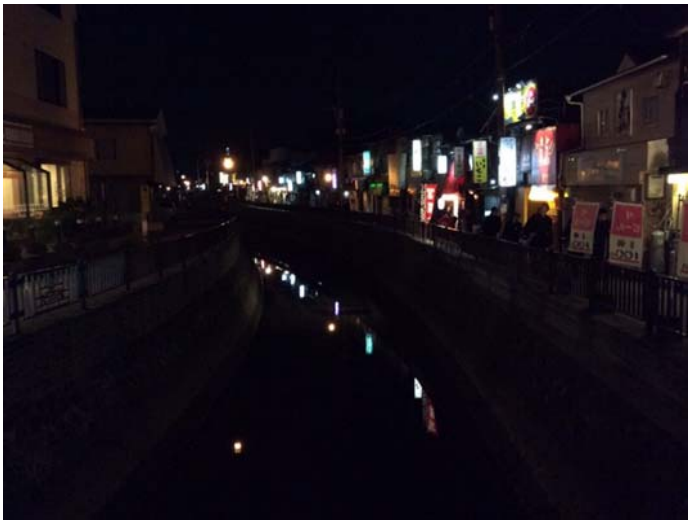


写真２　折尾駅前の遠賀堀川

遠賀堀川は、学生や折尾駅利用者など多くの人の目にふれる存在であることを実感しました。

翌朝宿から再び折尾駅前に来たときには、降雨によって川に緩やかな流れができていました。川岸のところどころにゴミが落ちているのを見て、まずは堀川を知ってもらうこと、関心を持ってもらうことが必要であると思いました。

写真３　河守神社

写真４　水深の浅い遠賀堀川

写真５　曲川からの取水ポンプ付近

◆27 日

①遠賀堀川　河守神社

堀川の歴史を最も感じられるのが、この河守神社周辺でした。（写真３）堀川が人の手によって掘られた跡がはっきりとみることができました。

遠賀堀川を考えるうえで絶対に忘れてはならないのが、もともと人工的に造られた川という事実です。率直にいうと、彼杵川のように入って遊びたい川であるとは感じませんでした。ですが逆に住宅地の中を流れ、多くの人の目に触れる機会があるという良さもあると思いました。堀川の存在感を高めるにはどんな形であれ、多くの人に見てもらう、そして、「魅せる」川にすることが鍵になります。その手段のひとつとして堀川の歴史が活きるのではないでしょうか。

②遠賀堀川・水巻町訪問

遠賀堀川中流は比較的水深が浅い部分が多く、流量が少ない場所に当たります（写真４）。河守神社も位置する水巻町付近のこの地点には赤く可愛らしいアーチ状の橋も架けられており、遠賀堀川が人々の暮らしている場所のすぐ近くを流れている身近な川であることを実感させてくれました。現地訪問に出発する前のゼミのミーティング内で、遠賀堀川に屋形船のようなものを浮かべて祭りを開催する、といったアイデアを耳にしましたが、今回現地で堀川を実際にこの目で見ることでその案により一層魅力を感じる結果になり良かったと思います。

③曲川からの取水ポンプ

遠賀堀川が曲川から取水を行っている場所を訪れました。（写真５）私たちが訪れた時はちょうど取水を行っている最中で多くの水が遠賀堀川へと流れていました。遠くからでもポンプの軋むような音が聞こえてきており、取水時の騒音が周辺の住民へ影響を与えているので、取水は常時行っているわけではないとのことでした。騒音問題が解決されればより取水を行いやすくなるのではないかと思いました。

４．おわりに

今回は新人研修ということで新３年生にとっては初めての現地訪問でした。実際に自分の目で見て自分の足で歩くことで新たな発見や魅力を知ることが出来ました。今回の経験をこれからのプロジェクトに活かしていきたいです。

このたびの訪問にあたり遠賀川水辺館、遠賀川河川事務所の方々に大変お世話になりましたことを改めて感謝申し上げます。

筑波大学白川（直）研究室

遠賀堀川プロジェクトチーム：（新年度体制）

坂本貴啓、石川弘之、佐藤達裕、平尾真菜、藤原誠士、前田沙希、守谷賢人、山田怜奈、今泉光華（仮）、上田純祐（仮）、田川未来也（仮）、肥田野美琴（仮）、饒平名青空（仮）、白川直樹（指導教員）

＊今回の訪問者：川畑遼介、平尾真菜、今泉光華、上田純祐、田川未来也、肥田野美琴、饒平名青空

研究・事例紹介（2）　*Research and Project Report*

東彼杵町現地訪問（2016 年 2 月）の報告

筑波大学白川（直）研究室　東彼杵プロジェクトチーム

1．はじめに

2016 年 2 月 25 日から 26 日までの 2 日間、筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミの学生 2 名と、この春から新しくゼミに加入する新 3 年生 5 名の計 7 名で長崎県の東彼杵町を訪れました。

今回の現地訪問は、1 月から現地に関する勉強会に参加している新 3 年生が新人研修として行われました。

2．訪問日程

3 日間の日程は以下の通りです。

◆25 日　日本二十六聖人乗船場訪問

◆26 日　東彼杵町内を散策

3．東彼杵町訪問

◆25 日

・日本二十六聖人乗船場

長崎県東彼杵町にたどり着いた私たちが最初に案内されたのは、日本二十六聖人乗船場でした。この乗船場は彼杵川が大村湾に注ぐ河口部近くです（写真 1）。車から降りてその歴史を記す慎ましい看板の横を通り過ぎると、ただただ広がる大村湾が目に入ります。足元はコンクリートでもさらさらの砂浜でもない、まるで当時の様子をそのまま残してあるかのような自然な海岸でした。

今からさかのぼること 400 年以上前の 1597 年 2 月初め、豊臣秀吉の命でこの地に連れてこられた二十六聖人は船に乗り、時津を経て処刑場である長崎に向かったのです。

◆26 日

・河川公園「やすらぎの里」

やすらぎの里公園は江の串川を整備した河川公園です（写真 2）。植栽も豊かで、私たちが訪れた時はちょうど紅梅と白梅が見ごろで美しい景観が広がっていました。また上流には大樽・小樽の二つの滝があり、川を渡る飛び石もあるなど水遊びを楽しむことができる公園です。夏には川遊びを楽しむ子供の姿が見られるとのことで、お年寄りから子どもまで地域の人々に親しまれている公園です。

写真 1　彼杵川河口付近の日本二十六聖人の碑

写真 2　河川公園やすらぎの里で川渡り

・千綿中学校訪問・防災学習見学

イチゴの栽培ハウスと土蔵を改修したコーヒー店を訪れた後は、東彼杵町の高台にある千綿中学校を訪問しました。千綿中学校ではちょうど日本赤十字社長崎支部と千綿婦人会の方々によって非常食炊き出し体験の防災学習が行われており、その様子を見学させていただきました（写真 3）。家庭科室では、子供たちが熱心に指導者の方の話を聞きながら机の上の非常食を調理していて、地域の子供たちも防災力の向上に向けて懸命に取り組んでいる様子をうかがうことができました。

写真３　非常食調理の様子

写真４　千綿駅ホームから大村湾一望

指導にいらしていた日本赤十字社長崎支部の方に最近の防災教育についてお話しを伺いました。2000 年代にはあまり行われていなかった、炊き出しやロープワークといった実践的な防災教育が 2011 年の東日本大震災以降増えているそうで、長崎県内では平均年４回ほど実施されているそうです。いざ実際に災害が発生した際に、普段からこうした訓練を受けていると受けていないのでは大きく差が出るため、このような防災訓練を定期的に企画・実施することが重要になると思われます。今回は中学校での防災教育を目にすることができましたが、中学生を対象とした訓練だけでなく、東彼杵町内全体を対象とした防災訓練を企画していく事で東彼杵町の防災力が向上するのではないかと感じました。

・千綿駅

レトロな木造駅舎の階段を上ってホームに出ると、美しい大村湾を一望できました（写真４）。海岸線のすぐそばを線路が走っており、まるで映画の一場面の中にいるかのようでした。駅舎の中にはカフェスペースが設けられており、週末にはそのぎ茶やおにぎりを販売しているそうです。ホームからの眺望を含め、東彼杵町のシンボルといえる場所でした。

写真５　彼杵川河川公園にて

・彼杵川河川公園

ここでは河道の見学と森林ボランティアの方の話を聞きました。東彼杵町の人が口をそろえて大村湾の水産資源の乏しさについて話していたこと、そしてそれを改善すべく、森林から手入れをし、河川そして海を豊かにしていくという壮大な計画が何より印象的でした。彼杵川自体は緑豊かで水もきれいで、夏になれば川に入って遊びたくなる川でした（写真 5）。川遊びを通し、川に親しみを持った子ども達が将来の地域の川を守るリーダーとして育ち、東彼杵の美しい水辺が次世代に引き継がれていくことを願ってやみません。

4. おわりに

今回は新人研修ということで新３年生にとっては初めての現地訪問でした。実際に自分の目で見て自分の足で歩くことで新たな発見や魅力を知ることが出来ました。今回の経験をこれからのプロジェクトに活かしていきたいです。

このたびの訪問にあたり東彼杵町役場まちづくり課の方々、東彼杵町の住民の方々に大変お世話になりましたことを改めて感謝申し上げます。

筑波大学白川（直）研究室

東彼杵プロジェクトチーム（新年度体制）：

坂本貴啓・小沼良輔・金子貴洋・工藤拓哉・日比野愛・前田紗希・山田怜奈・今泉光華（仮）・上田純祐（仮）・田川未来也（仮）・肥田野美琴（仮）・饒平名青空（仮）・白川直樹（指導教員）

＊今回の訪問者

川畑遼介、平尾真菜、今泉光華、上田純祐、
田川未来也、肥田野美琴、饒平名青空

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ（2016 年 3 月末まで提供分） *Information from member*

【JRRN 会員からの提供情報】

「ヴェネツィアのテリトーリオ―水の都を支える流域の文化」新刊書籍案内

樋渡彩様（JRRN 個人会員）より、新刊書籍『ヴェネツィアのテリトーリオ―水の都を支える流域の文化』をご案内頂きました。本書はこれまで行政単位で考えられてきた地域の在り方ではなく、河川や運河といった流域を軸にした地域の見方を提示しております。

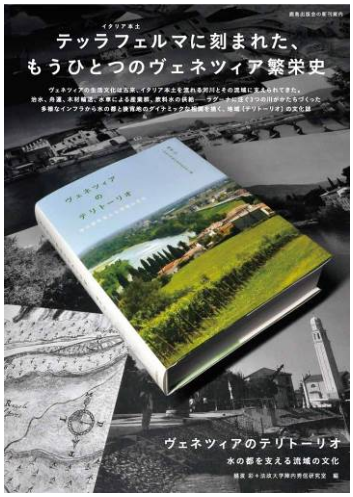
●編著者：　樋渡 彩、法政大学陣内秀信研究室

●発刊日：　2016 年 3 月 10 日

●定価：　¥3,888

●出版社：　鹿島出版会◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2373.html



【海外からの提供情報】

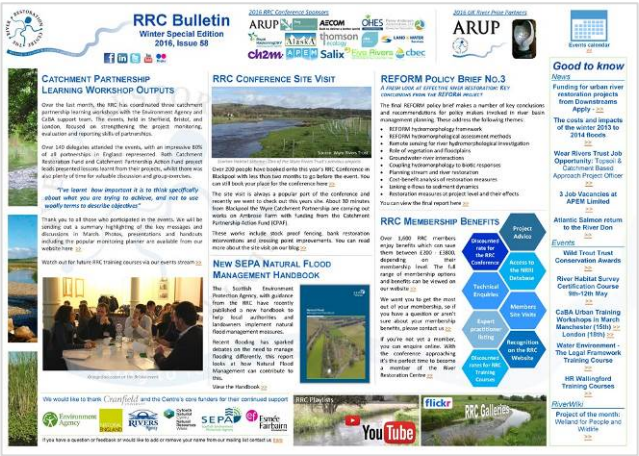
「RRC（英国河川再生センター）最新ニュースレター」

RRC（英国河川再生センター）の最新会報（2016 年・冬特別号）が RRC 事務局より届きました。

本号では、RRC 流域パートナーシップ研修会報告、RRC 年次講演会での現地視察先案内、スコットランド環境保護庁より発刊された「Natural Flood Management Handbook」などが紹介されています。

◆詳細は以下参照

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2362.html



書籍等の紹介 *Publications*

■ **できることからはじめよう　水辺の小さな自然再生事例集　（2015.3 発刊）**

・監修：玉井信行　東京大学名誉教授 / JRRN 顧問

・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会

・デザイン：本間由佳　鶴川女子短期大学

・発行：　日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・出版年月：2015 年 3 月

市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ **河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう　市民による河川環境の評価～（2014.3 発刊）**

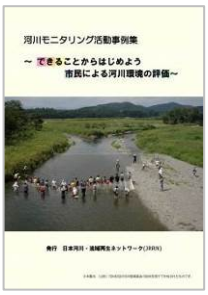
・監修：白川直樹　筑波大学准教授（JRRN 理事）

・執筆協力：　河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集：　JRRN 事務局、筑波大学白川（直）研究室

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・出版年月：2014 年 3 月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

上記冊子の「印刷製本版」入手方法　　※PDF 版はこちらから：　http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。（JRRN 会員限定）

JRRN 会員募集中　*JRRN membership*

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。

(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。

(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。

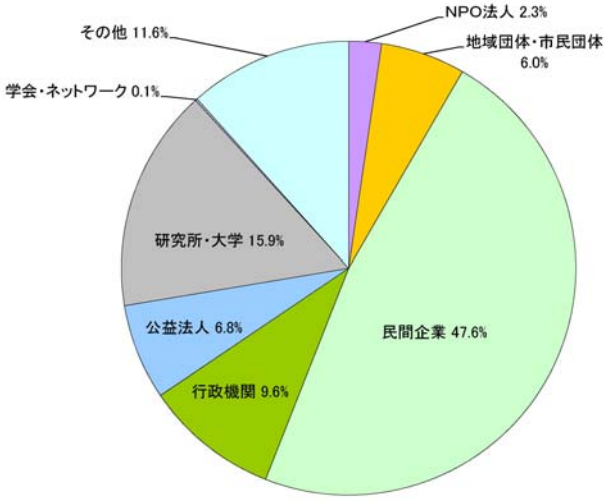
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。

(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2016 年 3 月 31 日時点の個人会員の所属構成

（個人会員数：731 名、団体会員数：60 団体）

※3 月の新規入会数：　個人会員 1, 団体会員 1

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：　http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　新川中央ビル 7 階　（公財）リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net

URL: http://www.a-rr.net/jp/　Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　CTI 株式会社建設技術研究所 国土文化研究所